

総合支援学校に通う生徒における報告言語行動の増大に関する写真の効果

The effect of taking pictures on increase of tact for student from school for mentally challenged

○林 炫廷*・望月 昭**・丹生卓也***・稲生ゆみ子****

LIM Hyunjung, MOCHIZUKI Akira and NIU Takuya, INAO Yumiko

(立命館大学院応用人間科学研究科*・立命館大学文学部**・立命館大学院社会学研究科***・呉竹総合支援学校****)

*Graduate School of Human Services, Ritsumeikan University; **Faculty of Letters, Ritsumeikan University; ***Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University; ****mentally challenged school

key words: taking pictures, tact, increase

目的

今までの障害のある個人に対する写真を用いた教育実践研究では、重度の障害児・者のコミュニケーションにおける、言語表出のための選択肢などのツールとして用いられることが多かった。一方、軽度障害児・者における研究で、人々とコミュニケーションを行うために、または、自己決定、自己管理、生活範囲の拡大のために、写真が有効に利用されてきた。しかし、自らが写真を取り、その写真を用いることで、報告言語行動自体を楽しむ、といった写真使用の方法について焦点をあてた研究はあまりない。

本研究では、総合支援学校に通う生徒を対象に、自分自身で写真撮影を行うことによって、その写真を基に言語表出することによってより多くの外的・内的事象の報告言語行動の増大を目的とした。前日の自らの行動を報告する場面において、自ら撮影した写真を用いる場合と、用いない場合ではどのような違いがあるのか。そして、その報告の状況を、日記を書くものと、聞き手を目の前にした口話（会話）による報告という2種類設け、報告形式の条件の違いによって言語行動の内容の違いが見られるのかについても検討した。

方法

対象生徒

K市内の総合支援学校高等部2年生のM君であった。

期間

200X年10月2日から、200X年11月27日までの毎週木曜日と金曜日に実施した。

装置

操作の単純性を考慮し、Canon A570のデジタルカメラとCanon SelphyPlxus (CP770)のプリンターを使用した。

手続き

ターゲットになった行動は、日記への記述行動と口頭（会話）での報告で、従属変数は、日記の変化と会話の変化である。すなわち、日記の文字数、口頭（会話）の増加、日記のバリエーション、口頭（会話）のバリエーションである。これに対する独立変数として、日記を記述する際と会話をする際に自分で撮った写真を用いるか用いないかと条件とした。

以上のそれぞれの実験条件の中で報告をする日記の内容と会話の内容がどのように変化していたかを明らかにするため

に実験デザインとして、条件交代デザインを使用した。

結果

写真を用いることで日記の記述量の変化はなかった（図1）。しかし、日記報告の内容に関しては写真を用いることで、新奇単語が増えた。また、口頭報告（会話）の発言数も写真を用いることで増加した（図2）。口頭報告（会話）の内容についても写真を用いることで、新奇単語が増加した。

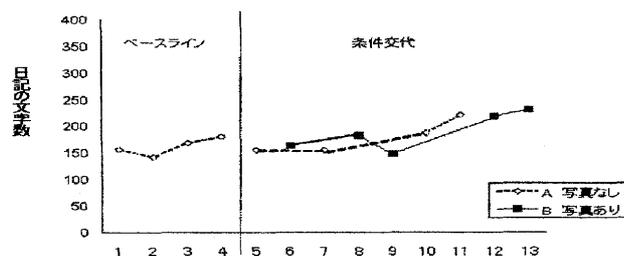


図1. 対象生徒の日記報告における文字数を表したものである。A条件は、写真を用いないでの日記の文字数であり、B条件は、写真を用いるでの日記の文字数である。縦軸は、セッションを表し、横軸は日記に記述した文字数である。

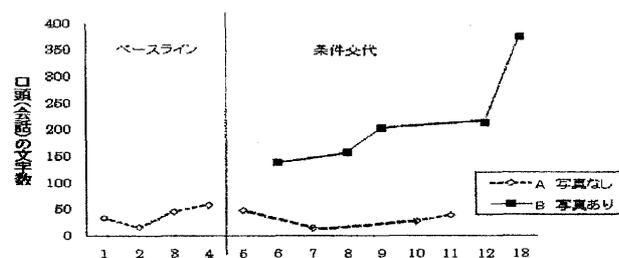


図2. 対象生徒の口頭(会話)報告の文字数を表したものである。A条件は、写真を用いないで日記を書いた後に生じた口頭(会話)の文字数である。B条件は印刷した後の写真を見ながら生じた口頭(会話)の文字数である。縦軸はセッションを表し、横軸は口頭(会話)の文字数である。

考察

本研究で、自発的に撮った写真が自分の報告行動の弁別刺激になり、報告言語行動のバリエーションが増大したと考えられる。また、写真を基に口頭（会話）での報告をするという場面で、聞き手の即時的なフィードバックが、報告言語行動のバリエーションの強化になったと考えられる。反面、写真を基に日記を記述する際に、聞き手の強化の遅延があったので、日記の量は増加していなかったと考えられる。つまり、報告形式に示す日記を書く条件と口頭で報告を行う条件に写真を用いることで報告行動のバリエーション（新奇単語）の増大になった。その上、聞き手の反応によって日記の報告と口頭での報告の差が出たと考えられる。